

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-162	12-308	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Therapist competence and treatment adherence for a brief intervention addressing alcohol and violence among adolescents. 若者のアルコールと暴力に関する短期介入のためのセラピストの能力と治療アドヒアランス		
執筆者		
Resko SM, Walton MA, Chermack ST, Blow FC, Cunningham RM.		
掲載誌		
J Subst Abuse Treat. 2012 Jun;42(4):429-37. doi:		
キーワード		
アルコール、暴力、治療アドヒアランス、短期介入		
要 旨		
目的： 本研究は 14-18 歳の若者の間でのアルコール誤用と暴力行為に対するセラピストの能力と短期介入の治療アドヒアランスについて調査する。		
方法： 60 のセラピストにより届けられたセッション (M = 32.5 分) を評価するために、忠実度に関する 3 つの観察的な計測が独立評価者により用いられた。		
結果： Content Adherence scale、Global Rating of Competence (Global Rating Motivational Interviewing Therapist [GROMIT])、Self Exploration and Change Talk (SECT) の個々の項目は、まずまずから優秀の評価者間の相関 (クラス内相関 ; .40 から 1.0) を示した。主成分分析が Content Adherence と GROMIT の下にある因子構造を特定するのに用いられた。並行分析は介入のセグメントごとに 3 つの異なるゴールを反映し、Content Adherence で 3 つの構成要素が抽出されることを示唆した。GROMIT では動機的面接とエンパワメントの一般的スピリットを表す 2 つの構成要素が特定された。		
結論：		
本研究の知見は本研究で適応する忠実度の推定を支持し、将来の訓練と臨床スーパービジョンに関する方向性を提供する。		